

## 一般社団法人日本粘土学会 2022 年度第 2 回常務委員会議事録

日 時：令和 4 年 1 月 22 日（土）13:00～15:00

会 場：Zoom 会議室

出席者：常務委員(16 名)：小暮敏博、千野裕之、中川昌治、佐藤 努、日比野俊行、中戸晃之、伊藤健一、小口千明、川俣 純、佐久間博、笹井 亮、田村堅志、樽田誠一、手束聡子、森本和也、鈴木憲子

監事(2 名)：月村勝宏、志々目正高

オブザーバー：藤村卓也

事務局：川島朝子

成立確認：常務委員総数 16 名の過半数 8 名

出席常務委員 16 名で常務委員会の開催は成立

### 審議事項

#### 1. 2022 年度事業中間報告

各担当委員から配布資料に基づいて中間報告があった。庶務委員より別資料によって会費未納者のリストが示され、委員の中にリスト中の未納者をよく知っている人がいれば本人に伝えて欲しいとの要請があった。

#### 2. 2022 年度会計中間報告

伊藤会計委員から配布資料に基づいて中間報告がなされた。審議すべき事項として会費資格停止者及び名誉会員からの会費の「預かり金」の問題が提案され、理事会で諮ることとした。事務局からこの会員資格停止者からの会費の預かり金について補足説明があった。

#### 3. 粘土科学討論会について

##### (1) 第 64 回粘土科学討論会について

第 64 回の樽田実行委員長より配布資料をもとに、開催報告および会計報告があった。参加人数は 123 名であったが、内 2 名はシンポジウムの講演者を討論会に招待したので、会計上は 121 名の参加であるとの説明があった。また収支については第 63 回（埼玉大学現地開催）と同程度の黒字となったことが報告された。

##### (2) 第 65 回粘土科学討論会について

第 65 回の笹井実行委員長より配布資料をもとに開催案の説明があった。現時点では対面での開催で計画を進めていること、また会場費を無料とするので、島根大学を共催リストに加えたいという申し出があった。また、要旨送付方法として、市販のフォーム作成ツール(formrun)を使いたいとの申し出があり了承された。田村シンポジウム担当委員より資料 5 に基づいてシンポジウム案に関する説明があり、「計算科学」をテーマで行ないたいという報告があった。また会員外の方に講師を頼む場合、オンラインも可能であるとしたほうがお願いしやすいので、ハイブリッドでの開催は可能であるかとの質問があり、笹井実行委員長より可能であるとの回答を得た。佐藤常務委員長より、今後感染状況が変わり計画変更が余儀なくされた場合に審議すべき時期（例えば懇親会場の

キャンセル可能な期限など)を会長、副会長、常務委員長、事務局に報告して欲しいとの要請があった。また佐藤常務委員長より、要旨のアップロードの開始時期も開催予告に入れておいた方がいいとの助言があった。

#### (3) 第 66 回粘土科学討論会について

佐藤常務委員長より第 66 回粘土科学討論会は仙台の産総研東北センターに打診し、内諾を得ているとの報告があった。

#### 4. 役員選出投票の方法について

森本選挙管理委員より配布資料に基づき説明があった。選挙管理委員会としては費用、セキュリティを精査した結果、電子投票システムのクラウドサービスを採用したいとの提案があった。

#### 5. 個人情報保護規定(仮)について

伊藤会計委員より配布資料に基づいて説明があった。現在本会では個人情報保護についての公知はされていないが、クレジットカードの使用などもあり本提案をしたい旨が紹介された。細かい点については事務局と共に詰める必要があるが、規定を定めることについて理事会に諮ることとした。本件に関する今後の窓口について、佐藤常務委員長より本会は総務がないため、外部とのやり取りということを考慮し、渉外が担当してはどうかという提案があり、川俣渉外委員の了承を得た。

#### 6. クレジットカード情報提出様式(案)とクレジット決済申請書兼承諾書(案)について

伊藤会計委員より配布資料をもとに説明があり、理事会に諮ることとした。

#### 7. 学会賞等推薦フォームの改定について

中戸 Clay Science 編集委員長より、学会賞等推薦フォームに本会発行の学術雑誌への投稿を緩やかに促すような文言を加えたいとの提案がなされた。議論の結果、業績欄のところに「粘土科学および Clay Science に掲載された論文の合計数」を書いてもらうという案を、田村委員から理事会に提案することとした。

#### 8. その他

##### (1) Clay Science への依頼原稿に対する投稿料について

中戸 Clay Science 編集委員長より、Clay Science への投稿が少ないので、退職したシニアの方および奨励賞受賞者に総説の投稿をお願いし、その際、依頼原稿の投稿料は徴収しないという案が示された。論文誌は独立採算なので、無料が多くなるのは会計上望ましくないとの指摘があったが、編集委員長から、学術雑誌としても総説が多いのは望ましくないこともあり、号当たり 1 報程度に抑えたいとの回答があった。

##### (2) Asian Clay2024 について

川俣渉外委員より現時点での状況について報告があった。口頭発表は on site、ポスターは online、懇親会は開催しないということで進んでいる。また日程は 2024.6.1~15 の間の数日で開催される事が決定している。赤字が出たときの按分(黒字の場合も同じ按分)を決める必要があり、理事会で意見を求めることとした。

##### (3) 学術振興賞による ICC 参加への参加促進

小暮会長から、7 月の ICC での若手研究者の発表を支援するため、学術振興賞の活用

を会員に促してほしいとの意見が出た。。この件につき、渉外と広報から会員に周知することになった。

以上、審議の上、承認された。

#### 報告事項

1. 天然イモゴライトの参考粘土試料登録について  
森本参考粘土試料委員長より配布資料をもとに説明があった。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

令和4年1月25日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長 佐藤 努 ㊞

監 事 月村 勝宏 ㊞

監 事 志々目 正高 ㊞